平成 25 年度 第 6 回

日南市教育委員会

会議録

平成 25 年 8 月 12 日(月)、午後 3 時 00 分から
日南市役所・本館 2 階会議室

1 会議の名称 平成 25 年度教育委員会 第 6 回会議（定例）

2 会議日時 平成 25 年 8 月 12 日(月)、
午後 3 時 00 分から午後 4 時 30 分まで

3 出欠確認

(1) 出席委員 迫元茂保 藤田義弘 松野蓮香
黒木康英

欠席委員 八木真紀子

(2) 事務局 教育次長 村角昌宏
学校教育課長 倉元保久
学校教育課教育専門対策監 津曲文男
学校教育課長補佐兼管理係長 中川貴登
学校教育課指導主事 平川滋也
文化生涯学習課長 岡本武憲
スポーツ推進課スポーツ推進係主査 濱中伸太
学校教育課管理係主査 瀬田順司

4 場所 日南市役所・本館 2 階会議室

5 傍聴者 3 名

6 開会

【迫元委員長】

「子ども達の夏休みが半分過ぎましたが、今のところ事故の報告を受けていないので、安心しているところです。夏休み後半がはじまりますが、引き続き事故のない夏休みになればと願っています。

本日は、日南市の不登校児童生徒の現状を中心に会議を進めていきます。それでは、平成 25 年度第 6 回教育委員会・定例会を開会いたします。」

7 出席者及び傍聴者確認

【迫元委員長】

「出席者及び傍聴者確認についてです。本日は、八木委員が欠席です。（傍聴者 3

名)」

【村角教育次長】

「本日は、事務局全員出席です。」

8 活動報告

(1) 教育委員長活動報告【迫元委員長】

- ① 7月30日、日南市社会福祉協議会第三者委員会に出席しました。私が、この1年間、第三者委員会の委員長に就任しました。この会は、福祉関係で苦情、相談等があった場合、当事者同士でなかなか解決出来ない時に第三者委員会を開いて解決していく会議です。昨年は、苦情、相談等が5件ありましたが、第三者委員会を開く事はなかったということです。苦情、相談等の原因としては、ちょっとした言葉かけ、言葉づかい、思いやりの不足が原因だと感じました。
- ② 7月31日、8月2日、6日、7日、8日に夏季振徳塾の参観を行いました。それぞれの会場で子ども達が自分の課題を一生懸命に取り組んでいました。数名の先生方がついていきますので、分らない時は、質問できます。子ども達は、とても喜んで取り組んでいるように感じました。
- ③ 8月2日、泳げるようになるための水泳教室の参観を行いました。4つのグループにわかれ、それぞれの泳力にあわせて、指導者の方の指導のもと、子ども達が一生懸命がんばって泳いでいました。とてもいい取り組みだと感じたところです。
- ④ 8月8日、日南市共同募金会審査委員会事務局会議に出席しました。私は、日南市共同募金会審査委員会の副委員長に就任していますが、委員長と副委員長で会議を行いました。内容は、共同募金会で集めたお金を平成26年度にいろいろな各団体の助成事業に補助をしますが、その要望についての対応を検討する会議でした。

以上、活動報告を終わります。

(2) 教育長活動報告【黒木教育長】

- ① 7月24日、北郷小中学校のプールで行われた、市内小学校水泳記録会に出席しました。学校対抗の各種目が行われて、非常に盛りあがりしました。

中学校では、中体連がありますが、小学校でこういう活動はないので、なかなかおもしろい活動だと思って見学をしていました。

- ② 同日、榎原中学校長、担当の先生、3年生3名が来室されました。

内容は、子ども達で作ったランドセルのアクセサリーを持ってきて、榎原地区の「夢ひろば」でランドセルのアクセサリーを販売したことの報告に来られました。

将来の夢やあと残りの中学校生活をどう過ごすかなどのお話ができ、和気あいあいとした時間をもてました。

- ③ 7月25日、九州地区市町村文化財保存協議会情報交換会に出席しました。

各市町村、いろいろ悩んで文化財保護に力を入れています。

日南市の取り組みについて、特に飢肥の街並みですが、計画的に保存されていて、素晴らしいという評価をいただきました。

- ④ 7月26日、吉野方地区青年団の代表者が来室されました。

地元の方が小学校に愛着をもっている気持ちがよく伝わってきました。

- ⑤ 7月29日、図書館協議会に出席しました。委員の任命を行いました。

- ⑥ 7月30日、日南郷土史会の石川会長他数名が来室されました。

由緒施設の案内板が壊れているのでなんとかして欲しいと相談に来られました。次長のほうですぐ対応していただき、近々完成すると思います。

- ⑦ 7月31日、教育支援センターの職員との打ち合わせです。

学校が抱えている問題に対して、教育支援センターの職員がどのような形で動いているのか、どのような組織にすればもっと有効的な活動ができるのか等打ち合わせを行いました。

- ⑧ 同日、学校活性化に関する校長連絡会に出席しました。

内容は、小中一貫を基本として、いろいろな形で進められていますが、中学校の例で、学校によっては、学年が学年として成り立たない、学級が学級として機能しない状況があります。このまま、小中一貫にすれば問題が解決するのかと話題になっていました。中学校同士の統合もあってはいいのではないかと意見がでました。

今後、慎重に考えていかないといけない問題だと思います。

- ⑨ 8月1日、市町村教育長連絡協議会に出席しました。

各市町村、限られた予算の中で学力向上や社会教育、教職員の資質の向上等、いろいろな工夫をされていて、非常に参考になる会議でした。

- ⑩ 8月2日、人権教育研修会に出席しました。

- ⑪ 同日、県人事異動等説明会に出席しました。

内容は、決定ではないのですが、人事異動等の県の考えについて、情報提供がありました。正式には、後日、説明があると思います。

- ⑫ 8月3日、東郷くすの木祭りに出席しました。
非常ににぎやかなお祭りでした。
- ⑬ 8月5日、初任研・十年経過研修に出席しました。
初任研は、カツオの調理実習が行われました。
- ⑭ 8月6日、わかすぎ塾に出席しました。
私の方でいじめについての講話を行いました。非常に積極的に意見が出され、
こういった認識を高くもってもらってありがたいと思いました。
このわかすぎ塾から代表して、今年8名が東京で開催される全国いじめサミットに9月24日、25日の2日間、出席します。これは、文部科学省からの招待された事案です。
- ⑮ 8月18日、日南市戦没者追悼式に出席します。
今年から、中学生も参加し、献花と誓いの言葉を生徒が述べます。
今年は、油津中学校の代表3名がこの式典に参加します。
今後は、学校持ち回りで生徒に平和の意識、平和の尊さを感じられる時間を作
っていきたいと考えています。

以上、活動報告を終わります。

(3) 活動報告の質問

- (藤田委員) 7月24日の榎原中学校の3年生の生徒達が「夢ひろば」でアクセサリーを販売することになった取り組みのきっかけを教えてください。
- (黒木教育長) 校長先生が小物作りを得意にしている先生で、3年生の男子生徒に作り方を教えていたら、興味をもち、たくさん作るようになりました。
小さなかわいいランドセルのアクセサリーが出来ました。
それを「夢ひろば」で販売したり、差し上げたりしました。
- (藤田委員) 子ども達は、自分達が作成した作品に値段が付けられて、評価されたことについて喜んでいませんでしたか。
- (黒木教育長) 何よりも自分達が地域の行事に参加できた事を喜んでいました。
- (藤田委員) 8月18日の戦没者追悼式の主催はどこですか。
- (黒木教育長) 日南市主催行事です。
私が広島、長崎、沖縄の平和記念式典を見ていまして、子ども達が平和を誓う場面を見ると、この時期に平和について考えさせる事は、大切だと以前から思っていました。
福祉部長の方から相談があったので、お受けしました。
- (委員長) 日南市の行事ですね。

9 前回の議事録承認

了承

10 議題について

議題1 日南市の不登校児童生徒の現状について

(平川指導主事) (委員長)	日南市の不登校児童生徒の現状について説明。 いま説明していただいた内容で、大きく2つに分かれていまして、「不登校の実態・教育支援センターの学校支援システム」と「不登校0を目指して」とあります。
(松野委員) (委員長)	まず、不登校の実態・教育支援センターの学校支援システムについて、ご質問、ご意見はありませんか。 教育支援センターの主な担当の選考方法について教えてください。 あわせて質問します。
(平川指導主事)	主な担当で資格が必要な方がいるかどうか教えてください。 まず資格の件から説明します。スクールソーシャルワーカーは、社会福祉士、適応指導教室指導員は、不登校の児童生徒が適応指導教室で授業を受ける関係で教員免許をもっています。
(藤田委員)	あと、適応指導アドバイザー、巡回相談員、学校教育指導員、スクールアシスタントについては、特に資格が必要ではありませんが、適応指導アドバイザーは社会福祉士、巡回相談員の1人は教員免許、もう1人は社会福祉士をもっています。学校教育指導員については、コーチングの高い知識をもっています。日南市がコーチングに力を入れており、コーチングの理論を生かして、生徒や保護者に接するように各学校で研修をしていただいています。 スクールアシスタントについては、地域に根づいて、ネットワークを拡げています。 選考については、資格を加味しながら、教育委員会と相談しながら決定しています。 資料の不登校傾向の生徒のグラフを見て、3月時点で18名がおられて、卒業及び復帰した児童生徒がいると思いますが、このグラフを見

	<p>ると4月時点で、11～12名程度が不登校傾向になっています。この時点で新たな子どもが対象者になったのでしょうか。</p>
(平川指導主事)	<p>4月時点で不登校傾向は、11名です。うち、昨年からの継続者は、9名、新たな不登校傾向は、2名です。</p>
(委員長)	<p>5月、6月で1名ずつ増えていますが、この児童生徒は、適応指導教室に通っていた児童生徒が、学校に一旦復帰した児童生徒が新たに不登校傾向になったのですか。</p>
(平川指導主事)	<p>不登校の定義が年間30日以上欠席ですが、日南市の場合は、30日経ったからでは、手遅れになりますので、学校の方で判断して、ちょっと休みがちの場合、不登校傾向としてあげてもらっています。</p> <p>ここにあげている児童生徒が文部科学省の定義の30日以上不登校には、当たりませんが、学校のほうで配慮した方がいいということであげています。</p>
(委員長)	<p>適応指導教室から復帰して、また名前があがってきた児童生徒もいますし、新たにあげてきた児童生徒もいます。</p> <p>不登校の実態・教育支援センターの学校支援システムについては、よろしいでしょうか。</p>
(委員長)	<p>続きまして、教育委員会の取り組みの不登校0を目指してについて、ご質問、ご意見はありませんか。</p>
(委員長)	<p>質問です。</p>
(平川指導主事)	<p>資料中の時期に応じた指導の中で、夏季休業中の後半の教師の働きかけが大事だと説明がありましたが、具体的な方法を教えてください。</p> <p>特に夏季休業中で休みが長い間続いた学校に登校することは、ストレスを感じると思います。</p>
(教育長)	<p>具体的には、電話は、もちろん、まず家庭に行って、子どもの顔をしっかり見て、話してほしいと伝えています。</p> <p>それから、この後、運動会、体育大会を控えていますので、みんなでやることの楽しさを伝えていただきたいと思います。</p> <p>補足します。</p> <p>中学校、小学校において、課題が終わらなくて学校に行けない児童生徒が結構います。そのことで、ほとんどの学校では、8月20、21日あたりの登校日に課題が終わっているか終わっていないかのチェックを行い、終わっていない児童生徒には、そのための教室を開いて、毎日、学校に通わせて、課題を終わらせる指導をしています。</p> <p>要するに、課題が終わらなくて学校に行けない児童生徒を作らない取り組みを行っています。</p>

また、冬季休業中は、不登校の児童生徒に職員が年賀状を出すなどの取り組みもしています。

様々な手法で本人や保護者に常時、接触がとれるようにしています。

特徴的なケースで、中学校の時に全然、学校に来ていなくても高校に入学すると高校に行き始める生徒がいます。こういうケースがあるので、辛抱強く声を掛けながら、社会に出られるようにアドバイスをしていくのが一番良いと思います。

(藤田委員)

昔、そのようなことをラジオの子ども電話相談室でやっていましたよね。

要するに心のデリケートな子どもが不登校になりやすい傾向がある。能力的には、上だけどなかなか学校に行けない。

その当時の論調として、精神科の先生とか言っていましたが、学校に来なさいと働きかけてはいけません。そっとしておいてあげて時間がたてば解決するのだからという論調がありました。学校側が働きかければかけるほど子どもの負担になってしまう。そのあたりはどう思われますか。

(教育長)

常に登校刺激を与える続けることが必要だと思います。学校に来ないからそれを否定することや責めることはありません。教師が家庭に行って、本人の顔を見ることも登校刺激の1つです。

このような地道な活動を続けていくことが大切だと思います。

学校では、本人達の要望を全て聞くことができません。しかし、これはできるという約束をして、この約束を本人が守る意欲があるかどうかを確認しながら、それを登校刺激としていくやり方はできると思います。

駄目なものは駄目、しかしできることは一生懸命やってやるというような形をつくるのが良いと思います。

(委員長)

私のこれまでの経験の中で、子ども達を育てる時に子ども達は、自分なりのタイミングを持っているような気がします。

例えば、不登校であっても、いつになったら登校しようと心の中で決めている部分があるのではないかと過去の経験から感じたことがありました。

それから、登校刺激というのがありましたが、例えば、小学校の段階で挨拶していたのが、中学校1、2年になると挨拶なくなります。

その時に、教師の方が挨拶をずっと続けていると3年生になってまた挨拶してくれるケースがあります。子どもの発達とか精神的なものとか、あるいは、子どもの中のタイミングがあると思います。そうい

(委員長)	うことを周りの人が受け止めることが大切だと思います。 教育委員会の、学校に行きたいという思い、とことん聴く、子ども達が創る授業の創造、チームで対応、保護者との協力という事を学校にお願いしながら不登校 0 を目指すという取り組みの説明がありました。
(教育長)	極端な例ですが、保護者が教師と会ってくれない、子どもを家から出さない事案がありました。こういう事案に対して、学校も限界があります。教育支援センターにも限界があります。保護者は、学校に行かせる義務がありますが、義務を果たさない。どこも指導ができない究極の課題です。この課題が解決されない限り不登校 0 は難しいです。
(委員長)	とても難しい課題ですが、教育委員会として、教育委員会のできることを精一杯行うことが大事です。 このことについては、今後の検討課題だと思います。

議題 2 教育委員意見交換会

- ①保護者の意識の変化について（松野委員）
- ②教職員の資質向上及び育成について（松野委員）
- ③市民が日南の歴史、文化に触れる機会を増やすための施策について（例えば、由緒施設の年間パスポート導入等）（藤田委員）

1 1 その他

- (1) 9月行事予定について
別紙参照
- (2) 第7回 教育委員会会議（定例）
 - ① 日時 平成25年9月3日(火)、午後3時から
 - ② 場所 日南市市役所 本館2階会議室

1 2 閉会

会議録を調整し署名する。

平成 年 月 日

教育委員長

教育委員長職務代理者

教育委員

教育委員

教育長